

Mini ひびしん 経営内容のお知らせ

Disclosure

2023 4.1▶9.30

上半期ディスクロージャー

100th Anniversary

このまちが すべて
このまちに すべて

「あなたに相談してよかった」
それが私たちのよろこび。

このまちの未来のために、
新しいことにチャレンジしていこう。

一途に、まっすぐ、いつも前を向いて。

お客様と、このまちと、私たちが、
美しくひびき合うために。



福岡ひびき信用金庫

おかげさまで当金庫は2024年1月15日に創立100周年を迎えます。

ひびしん 経営内容のお知らせ

令和5年度 上半期の業績について

① 事業概況

令和5年度上半期を振り返ってみますと、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5類感染症」へ移行されたことや雇用・所得環境の改善などにより、社会・経済活動の正常化が一段と進展することで、個人消費の持ち直しの動きがみられました。

一方で、地政学リスクの長期化と、それに伴う原材料・エネルギー価格の高騰、為替相場の変動に伴う物価上昇圧力の強まりによる消費の下振れリスク、世界的な金融引き締めによる景気への影響など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、中期経営計画に掲げた“地域に暮らす人々の心と生活（暮らし）を豊かにする”というミッション達成に向け、長引く経済活動の停滞の影響を受けている中小企業を下支えするべく、お取引先の資金繰りなどの金融支援のご提案や、営業店と本部が連携した経営改善支援、事業承継支援に取り組んでおります。

令和5年度の上半期業績については、以下のとおりとなっております。

② 業績

預金の状況

預金積金については、100周年キャンペーン定期預金“サンクフルⅡ”を販売し、今回より法人のお客様にもご契約いただけることとしたこともあり、157億1千8百万円獲得することができました。この結果、預金積金の9月末残高は、前期末対比558億7千1百万円増加の8,396億8千6百万円となりました。

貸出金の状況

貸出金については、お客様の資金繰り支援も然ることながら、営業店と本部が連携してお客様に寄り添った経営改善支援にも力を入れた結果、事業性融資では新規事業所先414先を開拓し、45億9百万円を獲得することができました。また、個人向けの貸出について、消費者ローンを1,734件の36億9千1百万円獲得、住宅ローンを272件の50億1千4百万円獲得することができました。この結果、貸出金の9月末残高は、前期末対比121億7千6百万円増加の4,207億3千4百万円となりました。

収益の状況

貸出金利息につきましては、ゼロゼロ融資の元金返済が本格化する中、厳しい経営環境に置かれている中小企業を下支えするため、資金繰りなどの金融支援に力を入れたことで、事業性融資及び消費者ローンが伸長し、貸出金利息は対前年同月比7千5百万円の増加となりました。有価証券利息配当金につきましては、投資信託解約益が増加した結果、対前年同月比19億6千2百万円増加し、業務収益は増加しました。

また、株式等売却益や金銭の信託運用益が増加するなど臨時収益が増加した結果、経常収益は対前年同月比22億7千2百万円増加の105億9千万円となりました。

一方、費用面では、資金調達費用の大半である預金利息が対前年同月比で10百万円増加、物件費は2千6百万円増加した一方、人件費は5百万円減少しました。また、国債等債券売却損及び償還損が増加したことで、業務費用は増加しました。また、個別貸倒引当金繰入や株式等売却損が増加するなど臨時費用も増加した結果、経常費用は対前年同月比23億4千4百万円増加の93億5百万円となりました。

以上の結果、経常利益は、前年同月比7千2百万円減少の12億8千4百万円となりました。

令和5年度 上半期の業績 (計数)

以下に掲載している諸計数等は、当金庫へのご理解を深めていただくために任意に開示しているものであり、会計監査人の監査は受けておりません。

また、各計数につきましては、単位未満を切り捨てて表示しております。

預金・貸出金の状況

令和5年9月期の預金積金残高は、8,396億円となりました。

令和5年9月期の貸出金残高は、4,207億円となりました。

■預金積金残高

(単位：百万円)

	令和5年3月期	令和5年9月期
預 金 積 金 残 高	783,815	839,686
流動性預金	446,054	484,724
定期性預金	337,731	354,940
その他の預金	29	20

■貸出金残高

(単位：百万円)

	令和5年3月期	令和5年9月期
貸 出 金 残 高	408,558	420,734
割引手形	2,798	3,200
手形貸付	24,778	24,108
証書貸付	361,961	372,342
当座貸越	19,020	21,082

■業種別貸出金残高

(単位：百万円)

	令和5年3月期			令和5年9月期		
	貸出先数	貸出金残高	構成比(%)	貸出先数	貸出金残高	構成比(%)
製 造 業	539	21,794	5.33	528	23,199	5.51
農 業 / 林 業	17	45	0.01	20	58	0.01
漁 業	2	20	0.00	3	18	0.00
鉱業 / 採石業 / 砂利採取業	3	43	0.01	2	41	0.00
建 設 業	2,046	46,864	11.47	2,064	47,988	11.40
電気・ガス・熱供給・水道業	3	1,243	0.30	3	1,203	0.28
情 報 通 信 業	77	640	0.15	80	736	0.17
運 輸 業 / 郵 便 業	166	8,880	2.17	164	8,998	2.13
卸 売 業 / 小 売 業	1,265	32,276	7.89	1,264	33,745	8.02
金 融 業 / 保 険 業	66	11,742	2.87	65	11,913	2.83
不 動 産 業	934	83,566	20.45	958	89,786	21.34
物 品 賃 貸 業	29	2,796	0.68	34	3,376	0.80
学術研究 / 専門・技術サービス業	260	3,375	0.82	265	3,161	0.75
宿 泊 業	13	788	0.19	13	763	0.18
飲 食 業	776	7,015	1.71	753	6,848	1.62
生活関連サービス業 / 娯楽業	449	3,952	0.96	454	3,851	0.91
教 育 / 学 習 支 援 業	73	2,098	0.51	74	1,977	0.46
医 療 / 福 祉	389	15,008	3.67	391	15,101	3.58
そ の 他 の サ ー ビ ス	589	11,478	2.80	583	11,371	2.70
地 方 公 共 団 体	12	16,331	3.99	12	16,492	3.91
個 人	21,820	138,596	33.92	21,832	140,100	33.29
合 計	29,528	408,558	100.00	29,562	420,734	100.00

(注) 業種別区分は日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。

ひびしん 経営内容のお知らせ

損益の状況

令和5年9月期の税引前当期純利益は、対前年同月比3千万円減少の12億8千2百万円となり、増収減益となりました。地政学リスクに伴う原材料・エネルギー価格の高騰、為替相場の変動に伴う物価上昇など、地域経済に大きな影響が及んでおります。先行きに不透明感があることは否めませんが、今後もお客様に寄り添い、金庫の健全性を保ちながら、課題解決に向けて役職員一丸となって取組んでまいります。

■損益の状況

(単位：百万円)

	令和4年9月期	令和5年9月期
経常収益	8,317	10,590
経常費用	6,960	9,305
業務純益	2,217	3,487
コア業務純益	2,480	4,420
コア業務純益（除く投資信託解約損益）	1,467	1,683
経常利益	1,357	1,284
税引前当期純利益	1,313	1,282
当期純利益	931	927

有価証券の状況

当金庫では主に国内の債券を中心に有価証券運用を行っており、令和5年9月期の評価損益は△45億2千4百万円となっております。

■有価証券の状況

(単位：百万円)

	令和5年3月期				令和5年9月期			
	時価	評価損益	うち評価益	うち評価損	時価	評価損益	うち評価益	うち評価損
株式	5,525	1,988	1,998	9	4,447	1,731	1,732	1
債券	94,337	△1,311	1,021	2,333	136,701	△4,454	736	5,190
その他	156,628	△860	4,995	5,855	135,095	△1,801	3,544	5,345
合計	256,490	△183	8,014	8,198	276,244	△4,524	6,013	10,537

(注) 1. 上記の「その他」とは外国証券及び投資信託等です。
2. 評価損益には帳簿価額(償却原価)と時価との差額を計上しております。

不良債権の状況

金融再生法開示債権による不良債権比率は2.84%となりました。不良債権に対しては十分な引当を実施しており、内部留保とあわせて備えは万全です。

■金融再生法上の不良債権残高

(単位：百万円)

	令和5年3月期	令和5年9月期					
	開示残高	開示残高 (a)	保全額 (b)	担保・保証等による回収見込額 (c)	貸倒引当金 (d)	保全率 (b/a)	引当率 d/(a-c)
金融再生法上の不良債権 (A)	11,875	11,988	10,697	9,342	1,354	89.23%	51.20%
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	2,722	2,902	2,902	2,409	493	100.00%	100.00%
危険債権	8,205	8,149	7,201	6,585	615	88.36%	39.36%
要管理債権	947	935	593	347	245	63.37%	41.76%
正常債権	398,005	410,074					
合計 (B)	409,881	422,062					
不良債権比率 (A)/(B)	2.89%	2.84%					

(注) 1. 「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」とは、破産、会社更生、再生手続等の理由により経営破綻の状態に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。
2. 「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。
3. 「要管理債権」とは、「3ヵ月以上延滞債権」及び「貸出条件緩和債権」に該当する債権をいいます。
4. 「正常債権」とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がない債権であり、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」以外の債権をいいます。

自己資本の状況

当金庫の令和5年9月期の自己資本比率は、国内基準の4%を大幅に上回っており、経営の健全性を維持しております。

■単体自己資本比率

(単位：百万円)

項 目	令和5年3月期	令和5年9月期
コア資本に係る基礎項目の額 (イ)	53,585	54,428
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額	52,152	53,061
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	1,385	1,318
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の45%に相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	48	48
コア資本に係る調整項目の額 (ロ)	252	315
無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライセンスに係るものを除く。）の額の合計額	252	315
自己資本の額 ((イ) - (ロ)) (ハ)	53,333	54,113
信用リスク・アセットの額の合計額	443,136	482,123
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	0	0
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	0	0
うち、上記以外に該当するものの額	0	0
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8%で除して得た額	20,710	20,710
リスク・アセット等の額の合計額 (ニ)	463,847	502,833
自己資本比率 ((ハ) / (ニ))	11.49%	10.76%

(注) 自己資本比率の算出方法を定めた告示の改正に伴う新しい自己資本規制に基づき算出しています。
なお、当金庫は国内基準を採用しております。

出資金及び会員数の状況

信用金庫は、営業地域内の中小企業や住民の方々を会員とした協同組織の地域金融機関です。地域の皆さまからお預かりしたご預金等をもとに、会員の方はもちろん地域の皆さまに広くご融資しております。信用金庫は地域の中小企業や住民の皆さまに安定した資金を提供することで、地域の再生・活性化を図ることを使命としております。

■出資金および会員数

	令和5年3月期	令和5年9月期
出 資 金 残 高 (百万円)	3,462	3,426
会 員 数 (人)	72,982	72,380

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



福岡ひびき信用金庫

〒805-8520 北九州市八幡東区尾倉2-8-1
TEL 093-661-2311(代表)

■ホームページアドレス

<http://www.fukuokahibiki.co.jp/>

■テレホンバンキングサービス

フリーダイヤル 0120-842-506

